安全・安心を提供する信頼性

Safety and Soundness Based on Reliability

有信　睦弘
ARINOBU Mutsuhiro

Samsung社を筆頭に最近の韓国各社の進出には目覚ましいものがあります。世界中にSamsungやLGの看板があふれ，先端技術でも日本をしのぐものが出始めています。しかし，東南アジアでは，日本製品というだけで，品質に絶対的な信頼を寄せている人々が数多くいます。日本製というだけで商品が人々に信頼され，安心感を与えていることは非常に重要なことだと思っています。

GE社の前会長であるJack Welch氏が自伝の中で，日本が手がけるものからは手を引くことにしたと述べているほど，日本企業は均質で低価格の商品によって世界を席巻しました。その後も“日本式”といわれる品質管理によって，日本の製品は高品質の代名詞になっています。米国では，ハッカーを題材にした小説の中にノートパソコンの高級品がTOSHIBAと書かれ，乗用車も日本製日本車と米国製日本車が区別されていると聞いています。

“安全と安心”が様々な所で盛んに議論されるようになっています。まずはテロやウィルスなどに対する安全の確保が思い浮かびますが，製品にとっても安全と安心は不可欠なものです。安全は製品の信頼性に，安心は製品に対する信頼感によるものだからです。日本製品の信頼性は優秀な技能工と，信頼できる取引先からの部品調達，広義の部品内製によるところが大きく，全体としての品質管理の仕組みが構築されていたように思います。この構図が大きく変わりつつある今，下流の製造を見据えた上流の設計段階での品質の作り込みがよりいっそう重要になっています。

人間がすべてを見通すことができないという意味で，完璧な製品はありえません。部品調達のオープン化や部品製造の多様化のなかで信頼性を確保し，顧客に安心感を与える製品を提供するためには，リスク管理の視点での信頼性評価が不可欠です。最終顧客の求める機能を求められるように発揮し，不可避な欠陥が紛れ込んだとしてもそれが致命的にならず，製品の機能を損なわないようにしなければなりません。設計プロセスのなかでも特に上流設計と呼ばれている部分で信頼性を作り込み，顧客に安心を与える製品を提供していくことが，わたくしたちの重要な使命だと思っています。

執行役常務　研究開発センター所長　　Corporate Vice President, Director of Corporate Research & Development Center